

白山ふるさと文学賞

第十回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 最優秀賞

救急救命士になる

広陽小学校六年

宮下 みやした

あみ

私は、救急救命士になりたいです。救急救命士は、救急車に乗り、病
気やケガをした人のもとにかけつけ、応急処置をし、病院まで運ぶ仕事
です。これから、勉強を積み重ね、人を大切にできる救急救命士になり、
たくさんの方の命を救いたいと思っています。

これまで、将来つきたい仕事は、人の命を救える、医師、看護師、介
護士でしたが、今は、救急救命士です。救急救命士は、病院や施設の中
で待っていて対応するのではなく、自ら困っている、助けを求めている
人の所に行きます。そのような人のところへかけつけ、すぐに対応がで
きるので、早く命を助けてあげられると思います。「救急救命士」のドラ
マをテレビで見てから、自分がしたいことは「これだ」と思った私は、
人の命や生きることの救い、支える仕事が、格好いいと思うようになり
ました。

そして、実際の仕事がどのようなことか知りたいたいと思い、調べてみま
した。すると、「普段は、消防署で消防官として勤めながら、事故や火災、
災害時などに救急隊員として現場にかけつけます。病院に搬送される間、
刻一刻と変わる患者の状態に応じ、適切な処置を行います。」とありまし
た。そして、救急車の中には、脈拍や血圧、酸素の量、心電図で体の状
態を確認できる車載モニター、人を運ぶストレッチャー、折れた骨を固
定する陰圧式固定器具、AEDと同じような働きをする除細動器などが
あります。さらに救急バッグには、気管挿管、輸液のセットがあり、そ
れらの器具を使って処置を行うそうです。それらを使いこなすためにたく
さんのことを知り、正しく使えるようにならないといけないと思いました。

救急救命士は、短時間で、高度な救命措置を行わなければいけません。
だから、医学的知識を持ち、日々訓練を行っているそうです。体がどの
ような状態になっているのか観察や判断をして、処置しなければいけな
いということが分かりました。それはつまり、専門的な知識を持ち、状
態が悪化しないように救う処置をするということなので、「責任感」がい
ります。いろいろな状況が起きると思うので、「冷静さ」も必要です。それ
に、救急車に乗る人数は限られているので、その分頑張らなければいけ
ない、そんな「緊張にたえられない心」も必要です。何より、自分自身が

「健康」でないといけないかもしれません。今、コロナ感染症が広がっていて、救
急車の要請が増えている、病院に搬送できないまま待機する人がいると
いうニュースを見ます。救急救命士の方は、救える命が救えない、救え
ないかもしれないという緊迫した思いで処置をしているのかと思うと、
とても大変だと思いました。でも、そのような中でも、病气の人に心配
をかけないように、笑顔で安心できる言葉をかけているのだと思うと、
「折れないメンタル」も必要だと思います。

最近、日本の各地で、地震や豪雨などの災害が起きています。このよ
うな自然災害の場で、命の危機が迫っている人のもとへかけつけ、最初
に救命処置を行えるのも救急救命士です。危険な場所へも行き、たくさ
んの人を助けています。とても大変な仕事だけれど、命を救い、希望を
与える仕事だと思っています。そして、救うことができた人々が元気になっ
た姿を見たり、感謝されたりすることで、やりがいもあるのではないかと
思います。

私の母は看護師なので、救急車が来た時に思うことは何かを聞いてみ
ました。母は、救急隊や救急救命士の方に、「病气やケガをしている人が、
安全に大切に病院まで運ばれてきて良かった。どんな状態なのか、どの
ような処置をしたのかを聞いて、次は医師の診察や処置ができるように
引き継ぎよう。ありがとう。いつも病气やケガをした人への対応、本当に
おつかれさま。」と聞いていることを教えてくれました。それを聞いて私
は、救急救命士は、「人の命を救う」ということをたくされて分る分の感
謝をされ、「命を次につないでいく」という仕事なのだと思いました。
救急隊の方々には、「ありがとう」と伝えていくそうです。患者さんのほ
うも、たとえ話せない状態でも、心の中で「ありがとう」と言っている
のではないかと思います。

今、私は、病气やケガをしている人に思いやりや優しさを発揮できる
救急救命士になりたいという思いを強めています。そのために、まずは
相手の表情をよく見たり、いつでも「ありがとう」や、「ごめんなさい」
などのあいさつをしたりすることから始めていき、「状況判断する力」を
高め、「相手を思いやる心」を育てていきたいです。